

## 第3回四万十町総合振興計画審議会 議事録

開催日時：令和3年3月25日（木）18:00～20:00

場 所：四万十町役場東庁舎1階大ホール

出席者（18名）：横山 順一、太田 祥一、尾崎 弘明、神田 修、佐竹 孝太、  
船村 覺、三浦 ひろみ、岡村 健志、田邊 誠進、中島 克明、  
横山 泰久、酒井 紀子、鈴木 幸代、野村 宏、藤澤 久美子、  
八木 雅昭、山本 由美、森田 健嗣  
(敬称略)

欠席者（2名）：泉 茂、森 雅順  
(敬称略)

事 務 局：四万十町役場企画課（4名）

### ■ 会議次第

- 1 開会
- 2 令和元年度地方創生推進交付金事業に係る効果の検証及び認定地域再生計画の中間年評価について（12月会議内容の振り返り）
- 3 評価（案）について
- 4 意見交換
- 5 その他
- 6 閉会

### ■ 会議資料

- 1 会次第
- 2 委員名簿
- 3 第2回総合振興計画審議会でのいただいたご意見
- 4 地域再生計画評価調書
- 5 令和元年度地方創生推進交付金事業（評価資料）

### ■ 会議録

(事務局)

それでは、本年度第3回目となります総合振興計画の審議会を始めさせていただきます。本日の会でございますが、前回12月に行いました会議内容の振り返りを行います。

て、地方創生推進交付金事業の効果の検証と認定地域再生計画の中間年評価につきまして、評価をとりまとめるところまでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。また、J A高知県の国広委員が退職されたことによりまして、今回新たにJ A高知県の横山委員にこの審議会のメンバーに加わっていただきましたのでご報告させていただきます。

(横山(泰久)委員)

よろしく申し上げます。

(事務局)

それでは開会のご挨拶を会長より申し上げます。

(八木会長)

皆さんこんばんは。3月も下旬となり花見のシーズンということになりましたが、新型コロナウイルスの関係でまだまだそういうわけにもいかない状況が続いているところですが、そういった中で第3回の総合振興計画審議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。町の状況でございますが、市町村合併をしてちょうど15年になりますが、この間約5千人の人口減となっているところで少子高齢、過疎が進んでいるところであります。役場の玄関のところに今月の出生者数が載っているわけですが、今月やっと二桁に達したというところでありまして、出生数の減少も激しい状況であり、そういった意味では出産適齢期の方が少なくなっているのではないかなと思うところです。

今回は、地方創生推進交付金の中間年評価ということで、後ほど議論をいただくわけでございますが、この交付金が住民に対してきちんと使えているだろうかという視点もいると思えますし、皆様方の忌憚のないご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

(事務局)

ありがとうございました。それでは、早速会議に入らせていただきます。会次第の2番について事務局からご説明をさせていただきます。＜資料について説明＞

(八木会長)

ありがとうございました。事務局の方から令和元年度の地方創生推進交付金事業の効果検証と地域再生計画の中間年評価についての説明と昨年12月の会の報告について説明があったわけですが、ご意見等ございましたらお願いします。

(鈴木委員)

四万十町の魅力というのは、「山・川・海 自然が 人が元気です」というキャッチ

フレーズのとおり、四万十町といえば四万十川があり、自然が美しいことだと思います。これからの地域を考えたときに、高齢者に元気でいてもらうことや、山間地域が元気でいられることが大事だと思います。その1つの案として、オーガニック給食が良い切り口ではないかと思っています。給食の食材として無農薬の作物を適正な価格で、農家の努力がきちんと報われる価格で町が買います。給食センターは、メニューに合わせた食材を大量に調達するのではなく、旬の野菜にメニューを柔軟に合わせられます。無農薬栽培をすることで、土壌も川の水も良くなります。それから、近年問題になっています、学習障害やアレルギー、自閉症などの子供が抱える疾患は食事を変えることで、改善されるという例が少なからずあるという話も聞きます。無農薬の野菜はよく高いといわれますが、人を健康にして、実際に医療費を下げているというデータも近頃は出てきているそうです。高齢者の福祉、住民の健康、農林水産業の振興、教育、景観・自然環境の保全にもつながります。オーガニック給食に取り組むことで、この町は子供のことを大事に考えているのかなということ、この町を選んでくれる方もいるんじゃないかなと思います。

(八木会長)

ありがとうございました。魅力あるまちから移住促進へということでの意見だと思います。

(酒井委員)

改めて確認したいのですが、最初にご説明いただいたのかもわかりませんが、この会は2年間任期をいただいて、年間のスケジュールとしては、いつどんな内容について議論をしていって、私達の意見がどうほしいのかというのは説明いただきましたでしょうか。

(事務局)

最初の回の際にご説明させていただいた際には、審議会の任務というところでいいかと、総合振興計画の審議ということで、町民の皆様がどういったご意見を持たれているのかというところで、ご意見をいただいて、計画を策定していくというところです。

ただ、今年度につきましては、審議会の任務の中に入ってくるところで、地方創生推進交付金事業の評価をお願いしたいということでご説明しているところであります。今後のスケジュールでいいますと、来年度に総合振興計画の基本計画の見直しを行うようになっております。

(横山(順一)委員)

地域再生計画評価調書のことですが、2の(1)の2ページ目のところの観光振興事業ですが、事業評価のところは評価的なことを記述するようになると思いますが、イベ

ントの入場者数が比較できるものを載せていただいています。これはこれで分かり易いのですが、もう少し過年度の課題を元にどう取り組んだかということが記載されているとよいのではないかと思います。取り組んだ内容をもう少し具体的に書いていただけると評価もしやすいと思います。

(事務局)

おっしゃるとおりだと思います。観光振興事業につきましては、様々なイベントについて取り組んできておりますが、その中で課題についてもイベントごとに違う課題があるかと思いますが、すべて書くのは難しいとしても、その中からいくつかは例をあげて、どういった事が課題であったので、課題を解決するためにこういったところを前年度と変えて取り組んできたのかがわかるような資料となるように取り組んでまいりたいと思います。ありがとうございます。

(八木会長)

役場から出されたものだけを評価するのではなくて、それが将来にわたって必要なのか、見直しをすべきなのか、そういったことを含めて分析をしていかないといけないと思いますので、事務局にはそういった視点での資料づくりをお願いしたいと思います。

他にご意見はありませんでしょうか。ないようですので、ひとまず地方創生推進交付金に係る効果の検証についてはここで終わりたいと思います。

続いて、評価案についてですが、事務局の方では評価案は用意していないということですので、今までいただいた意見を会長、副会長、事務局でとりまとめて答申をするということにしていきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

(酒井委員)

どういう評価の仕方が良いのか他の事例を知らないため判断しかねるのですが、町の全体予算が200億ぐらいある中で、ここの部分だけ1億ということでもってこられても評価しにくいと思います。全体的な部分が分かっただけで、その内ここの1億ということで説明いただければイメージが湧くのではないかと思います。

(八木会長)

本来であれば総合振興計画全体に対して全体の評価をすべきと思いますが、今回はこの事業を取り出して評価をしていくということになっておりますので、第1回、第2回で出された意見を中心に評価案をつくっていききたいと思います。

委員の皆様から、町の振興についての全体の評価が必要ということでありましたら、総合振興計画審議会とするのかどうかは別としても、住民の意見が反映される場の設定とか、そういったことについてご意見がありましたらお願いいたします。

(鈴木委員)

産業の振興も大事なことだと思いますが、地域住民の半分以上が高齢者になっている中で、それを高齢者福祉だけに任せずに、もう少し違う方面からも山間地域に力を入れていただけたらありがたいと思います。

(八木会長)

皆様方もこの第2次総合振興計画の冊子をお持ちだと思います。目を通していただいたら、今話しているのはその中のごく一部の内容であって、取り組むべき課題について細部にわたっては議論できないとは思いますが、それ以外のことについても皆さんのご意見をいただけたらと思います。

(山本委員)

資料1 ページ目のところで、東京オフィスには情報発信能力の高い首都圏のOLで結成した四万十町応援女子部というのがあるということですが、これは高知県出身の方でしょうか。それと、東京だけではなく、他の大阪や名古屋、福岡などの大都市に四万十町の情報発信はできないでしょうか。

(事務局)

四万十町応援女子部の方が四万十町出身の方であるかどうかについては、確認をしておりますでしたが、首都圏の四万十町出身者に対して効果的に情報発信をしていくということですので、本町出身の方もおられると思います。他の大都市で情報発信ができないのかというご質問につきましては、大阪や名古屋などの大都市では移住相談会なども実施しておりますので、一定情報発信は行っております。

(八木会長)

今4番目の意見交換のところの皆様方の意見をお伺いしたいというところをお願いをしているところですが、今質問もあったところですが、この会の進め方についても皆様方のご意見があればよろしくお伺いしたいと思います。

(神田委員)

今更の確認になって大変申し訳ないのですが、以前いただいた資料をみますと、今年の6月に計画案を審議するということがあったと思いますが、それはあがってきた案を審議するということが構わないでしょうか。それと、先ほど鈴木さんよりご意見があったような意見が次の会に反映されるものなのかどうかということはどうでしょうか。そこをはっきりさせておかないと話が進まないかなと思ひまして。

(事務局)

本日いただいたご意見につきましては、庁議等で報告をさせていただきたいと思いません。総合振興計画の基本計画（後期計画）の案につきましては、各課の職員が素案を作成いたしましたして、それを皆様にご提示させていただき、その計画について様々ご意見をいただきたいと思いますと考えております。

(神田委員)

わかりました。ということであれば、すべての意見が反映されるのは難しいと思いますが、可能であればご検討いただきたいと思いますという意見もこの場を出していけばよいのではと思いますがどうでしょうか。

(八木会長)

総合振興計画の目的というところで、まちづくりの基本方針があるわけですが、行政に要望するだけではなくて、住民も関わっていくというスタンスでのご意見がいただければありがたいと思いますのでよろしくお願いします。

(神田委員)

先ほど鈴木委員が出されたご意見に関連してですが、四万十町の給食についても、基本的には四万十町産の食材を使って地産地消の給食を出すということでやっていて、無理なものは町外から調達するという形だと思えます。自分は四万十市に住んでおりますが、四万十市の場合は、極力有機野菜を使っており、無理なものは低農薬野菜にすることで15年ぐらい前から取り組んでいるので、取り組むこと自体がとても難しいという話ではないのかなと思えます。ただ、それを取りまとめる団体があって、それができるかどうかという話なのかなと思えます。また、買取価格がべらぼうに高いわけではないので、町の予算がそれによってかなり上がるとかということもないのかなと思えます。ただ、その際に気をつけておかないといけないこともあって、できる限り有機野菜は使っていくけれども、それでは手に入らない野菜もあるということもきちんと説明したうえでやっていくことが必要だと思えます。

(八木会長)

学校給食についての話があったわけですが、民間を通じて四万十市でも実施しておるということで、四万十町でもできないことではないのかなと思えますね。

(酒井委員)

先日、自治区のことを条例から削除されるということになったのですが、振興計画の70ページには協働によるまちづくりの推進ということで、自治意識の醸成等について書いてあるのですが、それに向けての取り組みというのが少しわかりにくいです。自治

区を任せられる住民を育てたいのか、行政が一括して決めたことを粛々とやってもらいたいのか、町としてどんな考えなのかについて教えていただけたらと思います。また、最近知った情報なので、よく分かってないのですが、長野県の飯田市というところに、ムトスまちづくり推進課というのがあって、町として組織的に取り組んでいるところもあるようなので、そういったところも参考になるのかなと思います。

(事務局 山本課長)

ありがとうございます。自治区につきましては、この3月議会でまちづくり基本条例の改正を行いました。その内容としては、7章に地域内分権という項目がありまして、それは自治区を設置する前提があって、その章があったわけですが、町の方針として自治区は設置しないということでありましたので、その章を削除したということです。町長の議会答弁にもありましたが、地域内分権ということは地域のことは地域で考えましょうということとして、例えば大正や十和、窪川でも旧の5町村が集まっておりますので、どういう単位になるか分かりませんが、自治区によらない形で住民参画のまちづくりを進めていこうということでありまして、この総合振興計画の審議会が町内で唯一の諮問機関となっております。そういったところまでいかなくとも、町長に提案したりできる組織をつくっていこうということ考えているところです。

鳥取県の智頭町というところにもそういった委員会がありまして、住民が提案したことを町の政策に生かしているということでありまして、他の自治体の取り組みも参考にして、自治区に代わる仕組みを考えたいと思います。

(八木会長)

地域自治区に関して実は公聴会というのがあったわけですが、窪川地区は出席者が私だけでした。出席した理由は、実は意見公募を出したわけですが、私は、地域自治区は町が推進しないという方向ならばやむを得ないと思います。しかしながら、地域自治というのは住民自らの問題なので、町全体でやるということではなくて、地域ごとにそういったやり方を考えていき、それに住民が関わっていくことが大事ではないかと思います。合併して15年経って当初決めたことができていないわけです。どこの責任かということではなくて、それが本当に必要なら、先ほど山本課長が言われましたように、それに代わるものを進めていくということが大事ではないかと思います。

今ある組織としては、区長会があるわけですが、それも当然大事だと思いますが、やはり区長というのは1年で交代したり、順番に回っていったりと、地域自治に対してそれぞれの区長が目を向けているかということ、なかなか難しいところもありますので、そういう意味では地域に目を向けている団体ですとか、そういった方々が関わっていただいて地域を盛り立てていくという組織が必要ではないかと思います。

(八木会長)

せっかくの機会でありますので、この審議会の在り方ですとか、四万十町の方向性とか、気がつくところで結構ですので、ご意見をお願いします。

(尾崎委員)

住民と一緒にやっていくスタイルというのは大事だと思います。私は大正の出身なんですけど、この間大正のまちづくり推進協議会に参加させていただいた時に、大正ロマンということで、着物のファッションショーをやっているんですが、委員の方から大正の町を盛り上げていきたいという思いを聞かせていただきました。そういった思いを形にしていくということは大事じゃないかなと思いますし、そこには行政の力も必要ですし、住民の思いや行動力も必要になってくると思います。そうした動きの中で、住民と行政が関わっていくことは大事な事じゃないかなと思います。この総合振興計画についても、住民の意見を反映していくということで施策の方につなげていってもらえれば、もっと住民もこの町の住民としてよかったと思えるのではないかなと思います。住民の方が達成感を得られるような事をやっていけたらいいのではないかなと思います。

(太田委員)

自分は、移住促進の中のクラインガルテンの方に関わっておりまして、クラインガルテンのサポート隊としてトピア21という組織をつくっています。クラインガルテンに住んでおられる方と一緒にイベントをやったりとか、農業の相談を受けたりとか、食事をしたりして交流をしております。そういった中で、クラインガルテンを卒業した後に、この地域で家を建てたり、古民家を購入したりして残っていただいた方も今まで沢山いらっしゃいます。四万十町の良さを実際に住んでいただいて、分かっていたら、移住につなげていくということをしているわけですが、来ていただいた方によく言われることは、四万十町は自然が豊かで海もあって、山もあって、川もあってえいけど、本当に星がきれいやねと言われますので、そういったところも四万十町のPRに加えてもらったらと思います。

また、四万十町は子育てがしやすい環境づくりが整っているといえることがとても大事だと思います。やはり若者がおって、安心して子育てができることを1番に考えていくことで、だんだんと人口も増えていき、四万十町のファンも増えていくのではないかなと思います。そういった意味で若者の子育てを1番のターゲットにしてほしいという思いがあります。

(横山(泰久)委員)

自分は、農協の方で仕事をさせていただいていることもあって、生活ができていける農業ということを中心に、営農指導や販売、購買ということでお世話になっています。近年は、先進的な技術の導入が進み、営農面で一定成果が上がっておりますが、一方、

地域では担い手が不足しており、耕作放棄地の発生や、農道・水路の適正な管理、獣害への対策など問題も多くなっております。地域でも様々な制度や仕組みを利用しまして、地域を守る取り組みも行われておりますけれど、農家だけではそれらの問題の解消が難しくなってきています。今、町が中心となってそれらの課題を解決するために、人・農地プランの取り組みも進めておりますので、農協としても一緒に取り組んでいきたいと考えています。

それと、資料の説明で高校の話も出ておりましたけれど、私の長男も4年ぐらい前に窪川高校でお世話になっております。先生方も本当に一生懸命に学力の向上に取り組んでいただいておりますし、いろんな工夫もしていただいておりますが、残念ながら入学者が段々減ってきているということで、ぜひ地元高校に残ってもらえるような仕組みもつくってもらいたいと思います。高校が残れば地元に残る生徒も増えてくると思いますのでぜひお願いしたいと思います。

(田邊委員)

私は、森林組合の方で勤務をしまして、2年ぐらい前から、県外から就職をしたという方が増えてきました。今年度も22名の募集がきており、13名を雇用しました。しかし、半年経たない内に11名が辞めてしまい、現在2名しか残っていない状態です。最初は魅力を感じて入ってくれるのですが、やってみると現実は違うということで、辞めてしまうという方が多いかなと思います。要因としては、住居の問題も大きいと感じています。来られた方も家を探しているのですが、なかなか住む家がないところなんです。空き家は結構ありますので、紹介もするのですが、お正月は帰ってくるので、貸せないという方も多いです。結局、現在森林組合に残ってもらっている方も町営住宅に入っている方だけということになっています。四万十町の場合特に、農業も林業もそうですが、就職はあっても入ってから厳しさや実際やってみてうまくいかず、辞めてしまうという方が多いように思いますので、そのあたりがうまくできればもっと移住者も増えるのかなと思います。

それと、高校の関係ですが、自分も四万十高校の出身なんですが、娘は高知市内の高校に進学しています。自分の時は林業関係の課が学校にあたりして、そのまま森林組合に入ったのですが、今の高校には学んだことが、四万十町内での就職に見える形で繋がっていったのかなと思います。そのため、市内の商業系や工業系の高校を選ぶ子が多いのではないかなと感じています。もっと、地元の仕事につながっていくようなところがあれば、地元高校を選ぶ子も出てくるのではないかなと思います。

(横山(順一)委員)

10月の会の中で、一度スケジュールをいただいたのですが、今年の12月には議会の方へ上程したいという話も聞いておりますが、もう少し詳しい内容のスケジュールをいただければと思います。振興計画の政策目標や施策についても、内容をよく検討する必

要もあるかと思しますので、そちらの方の見直しも早くしていただきたらと思います。

(中島委員)

私は小学校に勤めておりますので、関連することを言わしていただきたいと思ひます。先ほど学校給食の話が出ていましたが、地域の食材というのは今も沢山使われていると思ひます。毎日、給食時の全校放送で、どの食材がどこで作られているのかということは放送しておりますので、子供達にとっても親しみがあるのではないかと思ひます。仕事柄いろいろな市町村へ赴任していつているのですが、四万十町の給食はとてもおいしいと思ひます。もちろん給食センターの方のご努力もあると思ひます。有機野菜やオーガニックの事が出ましたけど、給食費が上がらないのであれば、毎日難しくても定期的に取り入れるとかいうこともおもしろいかなと思ひました。それから、四万十川なんですけれども、全国的にも有名でファンも多いと思うんですが、子供達にとって四万十川は校区に流れているのに、あんまり身近な存在ではないのではと感じます。私は高知市から通っておりますのでよそ者なんですけど、子供達から夏に川へ遊びに行ったとかそういう話を聞くことが少ないと思ひます。もちろん子供達だけで行くとか危ないとかいうことはあると思ひますが、学校で四万十川に遠足に行くとか、水生生物を調べに行くとか、そういう活動をしなければ、川へ行く機会がないようです。学校だけであるのにも限界がありますので、川が子供達にとって、もっと親しみがわくような活動や取り組みがもっと増えていけば、自分達の地域を愛する子供達を育てることができるのではないかと感じています。

(佐竹委員)

会の運営について気付いた事がありましたので、少し提案をさせていただきます。こういう会を通じて四万十町をよくしていきたいとか、知恵をもらいたいとか、気づきを得たいということがあるとすると、この会の中で誰か協力する立場の人が客観的に見ていて、こうして出た意見を踏まえて、今までの取り組みを変えたり、新しいことを提案できる立場の人が居たらいいのではないかと思ひます。例えば、先ほど言われた鈴木委員の高齢者福祉の話と農業を組み合わせることで、じゃあこんな取り組みをしたらどうでしょうかというようなことがあれば、もっと有意義ではないでしょうか。自分達もいろんな会で意見を発言することは多いんですが、じゃあそれを形にするときに結構難しい作業がある場合も多いと感じましたので。

(野村委員)

事業名が魅力あるまちづくりから移住定住促進へということなんですが、魅力あるまちをつくるには、地元の人の方がもう少し地元目に向けて必要があるんじゃないかなと思ひます。先ほど、四万十町は星がきれいだということ言われた方もいたと思ひますが、今私も気がついたことなんですが、窪川中学校の屋上に天体ドームがあります。聞くと

ころによりますと、天体望遠鏡とドームが今眠っているようです。これに予算をつけて修理して活用できないかなと思います。そして、できれば一般にも開放していただくことができれば、大人から子供まで星に対して興味を抱いて、四万十町の事がもっと好きになると思います。

(山本委員)

野村委員も言いましたが、私も窪川中学校の天体ドームについては気になっています。15年程前に息子も中学校を卒業しておりますが、息子に聞きましたところ、全然知らないということなので、もったいないと思います。また、緑林公園ですが、最近はブランコやいろんな遊具が新しくできまして、子供の声も聞こえてきて、すごく良いと思います。また、最近ウォーキングをする人も多くなってますし、とても良い環境になってきていると思います。

あと、給食の意見も出ておりましたが、四万十町は高齢者が多いので、高齢者の力を借りて、野菜の作り方を知らない人に教えたり等、高齢者の方の生きがいにもつながるような事をすれば良いと思います。また、四万十町をアピールするのに、須崎なら「しんじょう君」とかマスコットキャラクターがありますけど、四万十町も生姜やニラや豚肉など良いものが沢山ありますので、何か考えてみてはどうかと思います。

(藤澤委員)

私は元保育士だったのですが、保育をする中で私が気づいたことなんですが、先ほど中島委員も言われましたように、本当に子どもが自然の中で遊ぶ機会が減っていると感じています。山へ行ったり、池で魚を釣ったりするような事は、今の子供は全くできていないのではと思います。自然の中で遊ぶということを子供のときに楽しんでいないと、四万十川を大事にするような人にはなれないような気がしています。

私も4月から窪川高校の地域支援コーディネーターということで活動させていただくことになりましたので、高校と地域を繋ぐ役割を担っていけたらと考えておりますのでよろしくお願いします。

(鈴木委員)

私は栃木県の平地の出身なんですが、慣れ親しんできた川のイメージというのは、水が黒くて、流れているかどうかもわからない感じでした。そこから、この町に来て、夏に子供を遊ばせに川へ行っったときの事を思い出すと、今でも鳥肌が立つぐらい美しいと感じたことでした。それをお伝えしたかったのと、最近地域ケア推進会議という会議に出させていただいて、高齢者や障がい者に対する町の取り組みについてお聞きしました。私がとてもショックを受けたのは、病院関係者の方から聞いた話なのですが、1日3度の食事もとることができない方もいるということなんです。そういった方がきっと沢山いるのではないかと想像しました。町の発展の基盤というのは、みんなが元気であると

ということが大切だと思いますので、高齢者支援課だけでなく、他の部署も連携をさせていただいて、高齢者が元気になるような取り組みを行っていただければと思います。

(船村副会長)

自分は、区長会の方からこの会へ参加させていただいております。立場上、いろいろな会へ呼ばれることがあるのですが、その中でも一番この会が難しいと感じています。四万十町の将来や方向付けということで、役場職員が作成した計画案に対して意見を述べていくということですが、この場に出された意見が反映されていくということではなければ、先ほどご意見が出ていまいしように、確かにあまり意味のないことになると感じています。

また、自治区の話が出ておりましたが、今の町長が自治区を設置しないということになりまして、これが議会で承認をされたということでもあります。この自治区がなぜ難しいかということに興津に例えて言わしていただきますと、興津には3つの部落が集まって興津という地区になっています。例えば、自治区を設定し、この興津地区に1千万円の予算を配分しますとなったときに、この1千万円をこの3つの部落の自治区役員が検討し、どのような事業をやっていくか、またどの事業へいくら配分していくかというところで、3部落の事業の分配をめぐるって、いろいろと問題も生じてくるということや、区長会と役割が被ってくるという心配もありました。自治区と区長会と違うところは、ある程度の予算を地区に配分して、使い方については地区で決めてくださいというところなんです。そういったことをまとめていく自治区が果たしてうまくいくのかどうかというところが問題として挙げられていたということです。

(森田委員)

今皆さんのお話を聞いていて感想になりますが、会の冒頭に神田委員さんから確認させていただいて、この会の立ち位置といいますか、今さらこんなことを言うのもなんですが、なかなか難しい会だというのは確かにそうだと思います。ただ、せっかくこういう場があるので、あきらめるのではなくて、この場を使いながら少しでもいいものにしていけたらと思います。総合振興計画そのものはとても幅が広いですし、今日のタイトルにもあるように交付金事業とか認定地域再生計画の評価ということで範囲を絞ってということでしたが、全部を網羅して意見を言うっていくということになると、佐竹委員も言われたように毎回4.5時間みっちり協議をして何回も話をしていかないと難しいのかなと思います。今日聞いていてわかったのは、前回検討した意見を事務局にまとめてもらって、それを担当課につないでもらってというお話でしたけれど、この場で議論していただいた意見については、しっかりその事が反映されたのか、又は検討したができなかったとか、明らかに示していただきながら進めていけば、おそらく評価はできていくと思いますし、皆さんが言ったことがどんな形で受け止められたかということが分かるとと思いますので、そういった意味ではよかったと思います。

(岡村委員)

個人の意見としまして、1000円かけて1100円の売り上げが上がっている事業をここで議論しても意味がないかなと思ってまして、そんなもの誰が判断する必要もなくやればよいということになると思います。人間がしっかりと議論をして、やるべきかどうか覚悟を決める必要があるものは、不採算だけれどもやるべきものだったり、まだ成果として表れていないものを本当に今後も継続してやるべきかどうかというものについて議論すべきだと思うので、そういった意味では事務局の方からもお話がありました、しっかりと議論をして諮問機関として意見を述べていくということの意義は大きいと思います。

それと、鈴木委員や神田委員のやりとりがすばらしいと思ってまして、鈴木委員の目的とは少し違うんですけど、いわゆる特別栽培といわれる野菜を給食に持っていくという事は、すごくすばらしいと思います。これは例え価格が上がったとしてもです。なぜかという、一方的な言い方ですけど、私達が買おうとしている価格はほとんど東京が決めているんだなという実感なんですね。僕達が価格を決めて売ろうとすると、とたんに大きなハードルになって、なぜだか頑張っ作っているのに安く売らなければならないということなんですね。それをどこかで応援してくれる人達がほしいなと思うんです。そういう意味で地元がしっかり応援をしてくれていて、しっかりお金がとれるようになるということになれば自分はすごく賛成なんですね。

あと、最後に会の進め方についてなんですが、これは森田委員が言われたとおりだと思います。ただ、いくつか気になる点がありまして、智頭町のお話がされてて、この総合振興計画審議会は町の唯一の諮問機関であるということなんですね。諮問機関というのは、総合振興計画を作る時は分かるんです。その運営なんですよ。それであるということと、特定目的の場合の諮問機関は分かるのですが、それが我々非常に苦労している原因だと思います。智頭町の事を参考にしてという話が出ておりましたので、少し見ておりましたら、百条委員会で職員と地域の方が部会を作って、3か月で企画を作っているんですね。それで、年間7.8から10本ぐらいだと思いますが、予算を上げて、それを何らかの方法で評価をして、できるだけ予算化していくという動きなので、少しこことは違うかなと思います。そこで聞きたかったのは、何でこの会をやらなければいけなかったのか、事務的な理由というのはありますか。例えば、地方創生推進交付金を使っているからということでしょうか。

(事務局)

そのとおりです。

(岡村委員)

それを分けた方がいいのではないかと思います。つまり、まち・ひと・しごと創生総

合戦略の進捗管理をして、その中で交付金を使っている主要な事業の進捗管理を行っていくということであれば、それはそれでやれば良いと思います。

一方で、諮問機関として何か地域協働計画というかプランを作ろうというのは一緒にやると難しいのかなという気がしました。それと、なんでこの事業が選ばれたのかというところが分かりすっきりしました。

(八木会長)

ありがとうございました。総合振興計画そのものは住民も議会も行政も一緒にこのまちづくりをしていくということが原点だと思います。行政が実施した事だけを評価するのではなくて、住民も一緒にやった事業についてお互いに評価をしていくということも一つの方法だと思いますので、次回の会の中で、まちづくりという視点の元で後期の計画が作られると思いますが、その計画の中に私達の意見がどう反映されるのか、また計画の進捗について将来的にどう見ていくのかという点について、次回の会の中で一定明らかにしていただいて、一歩進んだ議論ができたと思います。次回の会について事務局からありましたらお願いします。

(事務局)

次回の会なんですが、5月から6月ぐらいに設定したいと考えていますが、各課において、総合振興計画の後期計画の素案ができあがらないといけませんので、若干前後するとは思いますが、その状況を見ながらご案内をさせていただけたらと思います。今回ご意見をいただいた事については、今後の施策に生かしていけるように、各課の職員には情報共有したいと思います。よろしくお願いします。

(八木会長)

予定の時間になりましたが、この総合振興計画審議会が単に一つの施策の評価のみに終わるのではなくて、まちづくり全体について議論もできる会であり、計画に意見も反映されるように皆様方も関心をもっていただきたいと思います。次回の会について事務局から日程調整があると思いますが、最後に副会長より閉会の挨拶をお願いします。

(船村副会長)

皆様長時間にわたりご意見いただきましてありがとうございます。次のこの会がコロナの関係でどうなるか分かりませんが、委員の皆様には十分体調にも気をつけていただきまして、次回もご出席いただきますようお願いしまして閉会の挨拶とさせていただきます。

— 閉会 —